

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：32521

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02661

研究課題名(和文)女性教育者とそのTransnational Networkに関する比較文学的研究

研究課題名(英文)A Comparative Study of Female Educators and their Transnational Networks

研究代表者

小橋 玲治(Kohashi, Reiji)

東京成徳大学・人文学部・助教

研究者番号：60756435

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究ではTransnational Networkという概念の下、20世紀初頭から中葉にかけて海を渡った、高等教育を受けた女性たちがどのような論理においてそのような行動をとったのか、個々の研究者がそれぞれの領域において分析を行った。1)E. P. Hughesと安井てつの関係の余波 2)神智学やバハイのような宗教思想が日本の女性たちに与えた影響 3)アジア主義者とアメリカ人女性ジャーナリストAgnes Smedleyとの関係 4)英国で教育を受けた英領カリブ地域出身の女性

これらの独立した事象について、高等教育を受けた女性たちが国境を越え結んだ関係性が生み出した影響、余波を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、高等教育を受け、海を渡った女性たちの行動をTransnational Networkという視座の下に統合した際に見えてくる影響や余波を可視化したことにある。また、歴史学や教育学という枠組みの中で論じられがちだったそのような女性たちの行動に、特に文学における表象から読み解くという新たな方向性を与え、今後の研究の展開の可能性を開いた。社会的意義は、特に混沌を迎えた現代でこそ重要となったTransnational Networkについて、その機能の多様性を提言したことにある。

研究成果の概要(英文)： Through the concept of Transnational Network, this study analyzed how higher-educated women who crossed the sea from the beginning to the middle of the 20th century took such actions. This analysis was performed in the following research domains: 1) The aftermath of the relationship between E. P. Hughes and Yasui Tetsu; 2) the influence of religious thoughts such as theosophy and Bahai on Japanese women; 3) the relationship between Asianists and American female journalist Agnes Smedley; and 4) women in the British Caribbean region who received education in the United Kingdom.

研究分野：比較文学

キーワード：Transnational Network E. P. Hughes 安井てつ フィフス・オーフリー ブラック・フェミニズム
H・P・シャストリ(Shastri) アグネス・スメドレー(Smedley) 神智学

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

住み込みの家庭教師 (Governess) から始まり、高等教育の女性教師に至るまで (以下、女性教育者と総称) 19 世紀に本格化した女性教育者たちは、Cecilia Wadsö-Lecaros (2001) が概観したように、出現の当初から差別と偏見の視線にさらされてきた。例外はあるものの、英国における女性教師の表象は、興味本位ないし悪意に満ちた書き手ないし描き手によって担われてきた。

それはまた、女性教育の進捗が文明化の尺度となっていた関係で、いわばやむなく推進していった近代日本でも、同じ現象がみられた (小橋博士論文 2016)。一方、20 世紀になると、女性教育者たちは組合や友好団体ほか、公私にわたる Transnational Network を形成し、日本もその一端に組み込まれつつ、独自の展開と人脈を形成していった。こうした動向は、好奇の対象だった女性教育者表象が、文明化の担い手として肯定的に捉えられ、ひいては国民国家に奉仕する「母」へと大きく転換する契機となる。にもかかわらず、こうした英語圏全体に広がる人脈の研究は、狭義の組合形成史の中で教育史や教育社会学で注目されることはあっても、表象との相関についてはほとんど研究されることがなかった。

これら Transnational Network の功罪についての研究は、Antoinette Burton (1994) を嚆矢として、Kumari Jayawardena (1995) 等が続いた。英国のいわゆる白人女性たちによる英領インドでの現地支援活動と女性教育の導入は、Sisterhood という国家を越えた連帯として機能する一方で、文明化の使命と通底する帝国主義的な下部組織ともなったことが対比されている。一方、研究分担者である堀内真由美も『大英帝国の女教師』(2008) において、帝国から帝国内自治領への女性教師の派遣とその活動でさえも、帝国主義の補強という側面があったことを指摘している。同書において堀内は、帝国支配の強化にも貢献した組織として、女性校長を中心とした Cambridge Woman's Network を特記している。この人脈は、つとに日本の女性教育史でも断片的に言及されてきた。下田歌子の欧米視察 (1893) 以来、津田梅子の視察や安井てつらの留学など、英国の女性教育者たちとの交流が本格化し、そこから女性教員養成機関校長で、同ネットワークの一員である E. P. Hughes の来日が実現したからである。だが、日本の研究では背景としての言及にとどまり、Pam Hirsch、Mark McBeth の詳細な研究書 (2004) でもわずかに説明されるにすぎない。

組合や YWCA など女性の組織運動については、Marie Sandell (2014) や Joyce Goodman (2015) の論考、芝原妙子の研究書 (2014) など、戦間期の Transnational Network の研究は近年進んでいるが、いずれも個人の米国経験に重点が置かれるきらいがある。Hughes から津田梅子、安井てつなどに広がった人脈は、イギリス帝国のネットワークの一部が組み込まれると同時に、タイ (当時は暹羅) に名門女子校の校長として赴任し、女子教育の普及に貢献した安井のように、日本独自の帝国主義的な活動を余波として生んでおり、国境を越えた女性教育者の交流を功罪あわせて植民地主義の文脈で捉え直す必要がある。

2. 研究の目的

19 世紀に出現して以降、女性の教育者は、日英共に好奇と偏見の視線にさらされてきた。一方、20 世紀前半には、英語圏を中心に女性教育者の組合や団体など公私にわたる Transnational Network が形成され、日本もその一端に参加するようになる。本研究では、1) 英国から教育視察のために来日した E. P. Hughes を媒介者として、日本の教育者が構築した人脈を Cambridge Women's Network の観点から発掘及び再考し、組合をはじめとする組織化への影響と齟齬とを検討した。2) 反権力的な女性のネットワークがイギリス帝国に脅威を及ぼしていた好例として、上海の日本領事館にアグネス・スメドレーに関する情報提供をもちかけた H・P・シャストリに注目し、1) と対比しながら、インドやロシアの反英ないしアジア主義的な運動が、英国政府に内偵されていた経緯を考察した。

3. 研究の方法

1920 ~ 30 年代を中心とした Cambridge Woman's Network と日本との関連を明らかにするために、1) 3 人がそれぞれ英米ドミニカの公文書館、大英図書館インド省文書、ウェールズ国立図書館、東京の外交文書館、国立国会図書館などで一次資料を調査し、調査結果を新聞記事や小説などの表象との関連を比較して考察した。2) 英語圏と日本とのトランスナショナルなネットワークの中心となった人物として、神智学協会の James Cousins や H. P. Shastri、バハイの Dorothy Hodgson などを、上記の文書館であわせて調査し、重層的なネットワークの解明とその事跡を発掘し、あわせて小説などの表象との関連を比較して考察した。

4. 研究成果

成果として、小橋は論文 7 件、口頭発表 6 件 (うち国際学会 2 回)、橋本は編著 3 件、論文 7 件、口頭発表 10 件 (うち国際学会 3 回)、堀内は単著 1 件、論文 5 件、口頭発表 3 件が挙げられる。研究代表者の小橋に関しては、口頭発表したものについては全て論文化した。最終的な

成果報告会として、研究分担者のほかに大阪大学 大学院文学研究科助教モハammad・モインウッディン氏、大学院生西元まり氏を加え、大阪大学比較文学会シンポジウム「帝国を掘り崩す 知 女性と教育をめぐるトランスナショナルなネットワーク」を行った。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 19
2. 論文標題 ヴィクトリア朝のパンデミックと細菌兵器の物語	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本ヴィクトリア朝文化研究学会Newsletter	6. 最初と最後の頁 3-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto, Yorimitsu	4. 巻 -
2. 論文標題 An Irish Theosophist's Pan-Asianism or Fant-asia? James Cousins and Gurcharan Singh	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Theosophy across Boundaries: Transcultural and Interdisciplinary Perspectives on a Modern Esoteric Movement	6. 最初と最後の頁 345-371
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 堀内真由美	4. 巻 70
2. 論文標題 イギリス移民女性運動「史」 1970年代「ブラック女性」の避妊薬禁止運動	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告（人文・社会科学編）	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 27
2. 論文標題 安井てつこのウェールズ体験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京成徳大学研究紀要 - 人文学部・国際学部・応用心理学部 -	6. 最初と最後の頁 105-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 3
2. 論文標題 「女性登山家」としての野口幽香 E. P. ヒュースによる女性への登山奨励を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京成徳大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yorimitsu Hashimoto	4. 巻 -
2. 論文標題 On the Marine Road: Anglo-Japanese Encounters and Exchanges in Modern Maritime Culture	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Yearning for Foreign Cultures: An International Symposium in Hirado and A Panel in Macau New Aspects of Japanese Studies based on Overseas Documents	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 60
2. 論文標題 英国エージェントH・P・シャストリの諜報活動 - 東京・上海・ロンドンで活躍した「情報ブローカー」 - 付・インドで押収された大川周明の英文書簡とその翻訳	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪大学文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 77-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 -
2. 論文標題 東洋人アメリカ発見説とその転生 - 日本の写しとしてのインカ帝国幻想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 稲賀繁美編著『映しと移ろい - 文化伝播の器と蝕変の実相』	6. 最初と最後の頁 349-363
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内真由美	4. 巻 7
2. 論文標題 OWAADと「ウインドラッシュの娘たち」 旧宗主国における移民 女性運動「史」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 女性とジェンダーの歴史	6. 最初と最後の頁 82-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 2018
2. 論文標題 E. P. ヒュースによる女性への登山奨励の余波 タイへの影響も視野に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018	6. 最初と最後の頁 不明 (掲載決定済)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 2018
2. 論文標題 翻案されたタイ表象 - モームの「九月姫とナイチンゲール」(1922)と光吉夏弥の翻訳(1954) -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018	6. 最初と最後の頁 不明 (掲載決定済)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 13
2. 論文標題 裁量労働制の寓話ーヴェネツィアの彫刻家から博多の仙厓まで	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美学研究	6. 最初と最後の頁 144-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内真由美	4. 巻 68
2. 論文標題 島民になれなかった「植民者」 フィリス・オーフリー「正確なドミニカ理解」の果て	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告（人文・社会科学編）	6. 最初と最後の頁 15-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 108
2. 論文標題 織田作之助と南方派遣日本語教員 「旅への誘い」から「姉妹」へ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 64-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 51
2. 論文標題 Mrs. Henry Wood, East Lynneから伊原青々園「恋の闇」「子煩悩」への翻案 「新講話」という理想と限界	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 待兼山論叢文学篇	6. 最初と最後の頁 21-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOHASHI REIJI	4. 巻 1
2. 論文標題 From Literary Works to Comics in Japan: The Case of Shonen-sencho (1958) bu Fujiko F. Fujio	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Annals of "Dimitrie Cantemir" Christian University Linguistics, Literature and Methodology of Teaching	6. 最初と最後の頁 22-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 2月12日
2. 論文標題 赤毛の魔女っ子	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 産経新聞関西版朝刊	6. 最初と最後の頁 17-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内真由美	4. 巻 38
2. 論文標題 クリオール女性の帰郷 英領西インド諸島ドミニカとフィリス・オーフリー	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 女性学年報	6. 最初と最後の頁 27-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀内真由美	4. 巻 67
2. 論文標題 郷愁と確執と、クリオール女性の描く「故郷」 ジーン・リースとフィリス・オーフリーのドミニカ島	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛知教育大学研究報告	6. 最初と最後の頁 11-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小橋玲治	4. 巻 4
2. 論文標題 「東は東、西は西」 E. P. ヒュースと安井てつの中の'gulf'	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 長崎大学留学生教育・支援センター紀要	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 41
2. 論文標題 朝顔をめぐる英語圏のジャポニスム ガーデニングから禅まで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジャポニスム研究	6. 最初と最後の頁 101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋本順光	4. 巻 41
2. 論文標題 神智学とジャポニスム 三酸図・柔術・能	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジャポニスム研究	6. 最初と最後の頁 124-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 透明人間現る - 娯楽としての疎外と転覆の物語
3. 学会等名 怪異怪談研究会 (オンライン開催)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 霊媒画は能の如く - イエイツ・降霊会・久米民十郎
3. 学会等名 阪大比較文学会シンポジウム「越境する美術、変容する文化」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 「女性登山家」野口幽香の紀行文
3. 学会等名 日本近代文学会・昭和文学会・日本社会文学会合同国際研究集会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 「東は東、西は西」 E. P. Hughesと安井てつの中の‘gulf’
3. 学会等名 2019年度日本比較文学会中部・関西支部合同大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yorimitsu Hashimoto
2. 発表標題 The Two Faces of a Travel Agent: Japanese Passengers and A. K. Hasheem at Colombo”, “Marine Vessel and Road as a Socializing Vehicle Enroute Experiences, Transnational Encounters and Exchanges
3. 学会等名 The XXII Congress of International Comparative Literature Association（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yorimitsu Hashimoto
2. 発表標題 How the Invisible Man Appears in Japan: Revelation and Subversion of the Gender Hierarchy
3. 学会等名 The Challenge of Information Society: Japanese Perspective” Session 2 “Modern Literature as a Reflection of Society on Social Problems”（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 獅子文六の『南の風』(1942)にみる「からゆき」 - カオダイ教と西郷隆盛生存説の転用
3. 学会等名 大阪大学比較文学会学位論文発表会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀内真由美
2. 発表標題 脱植民地過程への忘却 ドミニカ島から英連邦ドミニカに至る 道のりを記憶するために
3. 学会等名 日本西洋史学会第69回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 Yasui Tetsu in Japan and Her Transnational Network
3. 学会等名 International Federation for Research in Women's History 2018 Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 E. P. ヒュースによる女性への登山奨励の余波 タイへの影響も視野に
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 翻案されたタイ表象 - モームの「九月姫とナイチンゲール」(1922)と光吉夏弥の翻訳(1954) -
3. 学会等名 タイ国日本研究国際シンポジウム2018 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 手塚治虫における『聊斎志異』の転用 「狐聊」から「四谷快談」まで
3. 学会等名 阪大比較文学会公開シンポジウム「児童と文学 怪と奇と性」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 書簡に見る安井てつとE.P.Hughesの関係 日本における女性の登山への影響の可能性
3. 学会等名 阪大比較文学会公開シンポジウム「比較文学研究に見る‘Trans-’」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀内真由美
2. 発表標題 クリオール女性の植民地から「本国」への移動
3. 学会等名 阪大比較文学会公開シンポジウム「比較文学研究に見る‘Trans-’」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 戦間期上海における諜報活動 - スメドレーとシャストリの交錯
3. 学会等名 阪大比較文学会公開シンポジウム「比較文学研究に見る‘Trans-’」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 日本におけるジェイン・エアのリライトと少女マンガ
3. 学会等名 2017年度阪大比較文学論文発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小橋玲治
2. 発表標題 世紀転換期における日英女性教師の関係性 E. P. ヒューズの行動を中心に
3. 学会等名 大阪大学比較文学会シンポジウム「帝国を掘り崩す知 女性と教育をめぐるトランスナショナルなネットワーク」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 橋本順光
2. 発表標題 アジア主義と新しい女性 パハイ教徒ドロシー・ホジソンの来日(1916-20)とその余波
3. 学会等名 大阪大学比較文学会シンポジウム「帝国を掘り崩す知 女性と教育をめぐるトランスナショナルなネットワーク」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀内真由美
2. 発表標題 カリキュラムの脱植民地化 知られざる「ブラック女教師」の物語
3. 学会等名 大阪大学比較文学会シンポジウム「帝国を掘り崩す知 女性と教育をめぐるトランスナショナルなネットワーク」
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 堀内 真由美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 女教師たちの世界一周	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋本 順光 (Hashimoto Yorimitsu) (80334613)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	堀内 真由美 (Horiuchi Mayumi) (60449832)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------